

# インタビュー コーナー

先代の二人の教授の「臨床を大事に、その視点から研究や学びを行う」という、教室の伝統を受け継ぎつつ、大学らしく、若い力を集め、自由に、楽しく、新しいことにチャレンジできるような教室を作りたいと思います。



琉球大学医学部病態解析医科学講座循環系総合内科学 教授

**大屋 祐輔 先生**

**Q1.** この度は、琉球大学医学部病態解析医科学講座循環系総合内科学分野教授就任おめでとうございます。ご感想と今後の抱負をお聞かせいただけますでしょうか。

ありがとうございます。私の場合、7年半の間、琉球大学で准教授（助教授）として仕事をしていたので、今回、教授に選んでいただいたことは、私自身の評価と同時に、私が行ってきたことへの評価だったと思います。それらが認められたと安堵するとともに、皆様からの期待に対する責任を感じているところです。抱負としては、先代の二人の教授の「臨床を大事に、その視点から研究や学びを行う」という、教室の伝統を受け継ぎつつ、大学らしく、若い力を集め、自由に、楽しく、新しいことにチャレンジできるような教室を作りたいと思います。

**Q2.** 大屋先生は県内の医師の人材育成に力を入れており、現在、地域医療再生基金事業の中で、沖縄県全体の共同利用施設として、医学・医療教育を行うクリニカルシミュレーションセンター設置計画を予定されているようですが、当事業の内容について、可能な範囲で結構ですのでお聞かせいただけますでしょうか。

今回のクリニカルシミュレーションセンター

構想では、シミュレーターを中心とした医学教育・研修施設とその運営団体を設立し、沖縄における医療者の育成システムのさらなる発展を目指したいと考えています。今回の医療再生基金に関する会議の中で、全県的に取り組むこととして、シミュレーションセンターを提案した際に、偶然に（後で考えると、当然、必然だったのかも知れませんが）、県立病院や群星の先生方が考えられていたことと、一致していて、とんとん拍子に計画が進みました。

具体的には、あくまでも私案ですが、シミュレーションセンターの中には、基本的なスキルを学ぶゾーン1、救急医療を学ぶためのゾーン2、専門的なスキルを学ぶためのゾーン3、の3つのゾーンを考えています。その中に、用途に応じたさまざまなシミュレーターを置き、それらを使ってバーチャルな状態を作り、知識、技能、そしてチーム医療を学ぶことができるようにしたいと思います。沖縄県医師会に音頭を取っていただき、県立病院、群星、琉大のRyumicのグループが協力して運営団体を作り、企画や運営を行っていく予定です。

従来の医療現場での on the job training に加えて、その前の段階で、シミュレーターを用いることで、安全に確実にさまざまなスキルや知識を身につけることができるようになると思います。

ます。また、シミュレーターですので、繰り返し行うことで、自分が身につけたものを確実にすることができます。医学部学生、看護学生、若い医師や若い看護師の教育においてのみならず、しばらく医療から離れていた人たちの復帰支援においても役立つものと思います。せっかく作る施設ですので、日本一の研修医教育を行っている沖縄県の医療界がさらに飛躍できる日本一、アジア一の施設を目指したいと思います。

**Q3. 本会が、平成15年から健康長寿県復活を目指して開催している県民公開講座の第1回目のシンポジストとして、大屋先生にご講演いただきましたが、県民の生活習慣病等の現状と今後の対策について、先生のお考えをお聞かせいただけますでしょうか。**

着任して間もない私を、県民公開講座の一回目のシンポジストに選んでいただいたことは、たいへん光栄であり、感謝いたしております。今から考えると、あの時、シンポジウムのために沖縄の医療について調べ、学んだことが、現在につながっており、私にとって、大きな転換点、出発点だったと思います。

県民の生活習慣病などの現状は、以前と同様に肥満は多く、疾病の発症も大きくは変わっていないと思いますが、県民の健康に対する意識は明らかに変わってきていると実感しています。以前は、あまり見かけなかったウォーキングする人も非常に増えていますし、弁当や食品売り場でも健康を意識したものが増えてきていると思います。県民の健康状況の改善は一朝一夕にはできませんので、私たちも医師会と伴に、地道に活動していきたいと思っています。

**Q4. 大屋教授が目指す講座運営の方針等について差し支えない範囲でお聞かせ下さい。**

大学教授の仕事は多彩で多忙と聞いていましたが、そのとおりでした。自分1人でそのすべ

てをこなすことは困難ですので、むしろ、若い力を育て、それぞれが活躍することで、臨床でも、研究でも、教育でも、教室全体のパワーにしたいと思います。これは、私が諸先輩から、そのように育てていただいたこともありますし、この7年半、琉球大学で実践してきたものでもあります。

若い医師たちの幅広い興味にも対応できるように、医学研究の手法は、集団レベルから遺伝子レベルまで、身につけてきたつもりですので、それらを若い人の育成に活かしたいと思います。琉球大学から1人でも多くの日本、世界で活躍できる人材を育成できたら、うれしいです。また、そのことが教室の活性化につながっていくと信じています。

診療においては、4月から、教室名を循環系総合内科から、循環器・腎臓・神経内科と変える予定です。内科全般は当然のことながら、専門領域では、この3つに関連した、循環器、腎臓・高血圧、神経・脳卒中の診療で沖縄県の医療に貢献したいと思っています。

**Q5. 県医師会に対するご意見、ご要望がありましたらお聞かせください。**

県民の健康増進の推進役として、また、今回の医療再生基金の件も含め、沖縄県の医療機関のまとめ役として、今後とも、ご指導をいただければと思います。

**Q6. 先生の座右の銘、日頃の健康法やご趣味などをお聞かせ下さい。**

座右の銘は決めておりませんが、「一期一会」を実感しております。健康法では、最近、ときどきジョギングをしています。

この度は、お忙しい中インタビューにご回答いただき、誠に有難うございました。

インタビューアー：広報委員 玉井 修